

説教ワポイント

あなたを受け入れます

ヨハネ八・一〜二

問答無用といきり立つ、有名人のネタをつかんで騒ぐ週刊誌のように。そんな空気が今日の聖書にも流れています。現行犯の女が連れて来られた。まさに問答無用。弁護の余地などないのは百も承知であえて、ちよつと待ってください！

現場で捕まる。それだけで辛かろう。さらに群衆の真ん中に立たされた。きつと心は張り裂けんばかり。でもおかしい、なぜ一人？ 律法でも姦通罪は両者が負うと。だが、相手はついに登場せず。彼女がいかに弱い立場か、それだけで分かる。一人罪を背負い衆目にさらされる。無言のまま。そこにもう一人、無言の人物が。イエス。さあこの女をどうする？ 権力者らが迫ってくる。「可哀想だ、ゆるせ」といえば民衆は喝采するが、律法を無視した罪で殺されよう。「律法通り、石

打ちせよ」といえば殺されこそしないが、民衆は落胆し、もはや神の国宣教は終わる。どちらに転んでも彼らに有利。明らかな罫であった。さあ、どうする、イエスよ。しつこく迫られ、ついに立ち上がり、この一言を発する。

「あなたがたの罪のない者がまず、石を投げよ」この言葉は、彼らへの強烈なパンチであった。先述の週刊誌のように自分は匿名の砦に守られながら他人をあげつらう彼らに対し、その同じ視線を一度でも自分自身に向けて見よ、と。あなたがたに罪はないのか？ と問うたのだ。するとどうだ、もつとも偉いとされていた者から順に退き、ついに誰もいなくなった。

一人残された女にイエスは語る。はつきりと自分の言葉で。「私もあなたを罪に定めない」。社会が追いやる者をイエスは受け入れた。ゆるし、であった。ゆるされたとき人は自由になる。もはや罪は犯さぬと心から誓うことができる。